

Title	大阪大学歯学雑誌 第64巻2号 目次
Author(s)	
Citation	大阪大学歯学雑誌. 64(2)
Issue Date	2020-04-20
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78304
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

大阪大学歯学雑誌

The Journal of Osaka University Dental Society

April 2020 Vol.**64** No.**2**

大阪大学歯学会

The Osaka University Dental Society
OSAKA JAPAN

大阪大学歯学雑誌

Vol. 64 No. 2 Contents

規 定

2020 年度 大阪大学歯学会 優秀研究奨励賞 規定

2020 年度 大阪大学歯学会 優秀海外発表大学院生奨励賞 公募要項

総 説

睡眠と口腔生理学：An another side of dentistry ————— 加 藤 隆 史 1

ストロンチウム徐放型バイオアクティブガラスの創製と歯科材料への応用

————— 佐々木 淳 一、今 里 聡 5

顎顔面の発生に必要な不可欠なレチノイン酸-Gata3 シグナルの同定 ————— 黒 坂 寛 11

原 著

パーキンソン病における痛覚過敏に関する基礎研究 ————— 成 清 綾 15

症例報告

カモフラージュ治療を行った骨格性 3 級アングルⅢ級ハイアングル開咬症例 ————— 岡 本 晴 奈 25

全身麻酔後に生じた陰圧性肺水腫に対し、

高流量鼻カニュラ酸素療法が奏功した 1 例 ————— 太 田 嘉 幸（他 3 名） 33

Information

会務報告 ————— 39

大阪大学歯学会会則 ————— 45

デジタルデータ出稿の詳細 ————— 48

引用文献の表記ルール ————— 48

歯学会雑誌原稿投稿時のセルフチェックシート — 49

誓 約 書 ————— 50

教室研究紹介

大阪大学大学院歯学研究科

顎口腔機能治療学教室 ————— 51

表紙のことば

口腔癌において、頸部リンパ節への転移の有無は患者の予後因子として非常に重要であることが知られています。当教室ではこの転移メカニズムを解析するために GFP を用いた口腔癌頸部リンパ節転移モデルを用いて研究を行っています（写真、右下）。この動物モデルから得られた検体（写真、上）や実際の臨床検体（写真、左下）を用いて、新たな治療標的となりうる因子を同定し、新規治療の開発を目指しています。（口腔外科学第二教室）

規 定

2019 年度 大阪大学歯学会 優秀研究奨励賞 規定

2019 年度 大阪大学歯学会 優秀海外発表大学院生奨励賞 公募要項

総 説

「歯科医師が行う口腔がん治療とは？」—— 鵜 澤 成 一 1

Streptococcus pneumoniae のコリン結合タンパク質が感染成立に果たす役割 — 後 藤 花 奈 (他 2 名) 5

組織再生誘導能を備えた FGF-2 担持ポリマー粒子配合レジンセメントの開発 — 壺 井 莉理子 (他 2 名) 9

原 著

線維芽細胞に存在する炎症増幅回路の活性化分子 Hmgcs1 の解析 — 板 東 秀 典 13

症例報告

上顎両側側切歯および上顎両側第二小臼歯先天性欠如症例の

矯正治療に自家歯牙移植を応用した一治験例 — 月 星 千 恵 (他 2 名) 21

Information

会務報告 — 27

大阪大学歯学会会則 — 33

デジタルデータ出稿の詳細 — 36

引用文献の表記ルール — 36

歯学会雑誌原稿投稿時のセルフチェックシート — 37

誓 約 書 — 38

教室研究紹介

大阪大学歯学部附属病院

検査部 (臨床口腔検査学) — 39